
第3回江府町議会定例会会議録（第2日）

平成28年3月7日（月曜日）

議事日程

平成28年3月7日 午前10時開議

日程第1 町政に対する一般質問

出席議員（10名）

1番 三好晋也	2番 竹茂幹根	3番 三輪英男
4番 川上富夫	5番 上原二郎	6番 越峠恵美子
7番 長岡邦一	8番 田中幹啓	9番 川端雄勇
10番 森田智		

欠席議員（なし）

欠員（なし）

事務局出席職員職氏名

事務局長 加藤 泉

説明のため出席した者の職氏名

町長	竹内敏朗	副町長	白石祐治
教育長	影山久志	総務総括課長	瀬島明正
消防防災担当課長	川上豊	財務担当課長	奥田慎也
人権同和対策担当課長	石原由美子	企画情報課長	池田健一
住民課長	山川浩市	福祉保健課長	川上良文
建設課長	梅林茂樹	農林産業課長	下垣吉正
奥大山まちづくり推進課長	加藤邦樹	教育委員会事務局次長	矢下慎二
会計管理者	森田哲也		

午前10時00分開議

○議長（川上 富夫君） おはようございます。

本日の欠席通告はございません。全員出席であります。

ただいまより平成28年第3回江府町議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、配付のとおりであります。

直ちに議事に入ります。

日程第1 町政に対する一般質問

○議長（川上 富夫君） 日程第1、町政に対する一般質問。

質問者の順序は、通告順のとおり日程に従って行います。

なお、質問方式は1項目ごとに質問と答弁で進行しますので、再質問、再々質問があればその都度行います。なお、1人につき、質問、答弁を含めて60分を目途に行います。

質問者、田中幹啓議員の質問を許可します。

8番、田中幹啓議員。

○議員（8番 田中 幹啓君） おはようございます。

先日の日本海新聞をあけたときに、衝撃が走りました。このことについては後任の方が質問されるようですが、竹内町長に質問が繰り返しできなくなるというようなことになれば、私個人と、議員としては寂しい気がいたしておりますが、きょうはできるだけ冷静に将来のことを考えながら質問をして、答弁をいただきたいというふうに思います。

最初に、ふるさと納税に関する質問をいたします。2007年の5月、菅官房長官が安倍内閣の担当大臣のときに提唱をされて始まったと言われておりますふるさと納税、都市と地方の税制格差を埋めるという発想が基本になっています。また、菅官房長官は秋田の出身であり、農村風景を見ながら、崩れ行く農村の現実というものを感じながらの発想ではないかと私は思っております。

現在、1,100を超える市町村がこれに取り組んでいます。厳しい財政状況の中、少子化、高齢化への対応を初め、文化面と、多面的に金は使われておりますが、一面、物品提供のサービス合戦の様相も呈してきたことは、若干の憂いを感じております。本県では15年度、米子市が7億3,677万円を集めているようでございます。全国で最初に納税者に対して物を贈ったのは米子市であったということが報道されております。倉吉は5億9,700万円、鳥取市は3億5,079万円でありました。全国では九州の平戸市、過疎の町だと報道いたしておりますが、菅官房長

官も認めております黒瀬啓介というカリスマ職員のアイデア、企画によって16億円の納税がありました。日本一であります。本町は平成20年、最初の年ではありますが、33万5,000円でありましたが、平成27年度は、きょう現在、1,700万の、昨年対比1.4%の伸びであります。努力の成果が出てると思います。日野郡ではトップであります。来年度はさらなる飛躍を期待できるといふふうに思っております。この凝られましたふるさと納税パンフを見ても、他の町に負けないような、若い職員が一緒になって、奥大山まちづくり推進課から全力を尽くされた結果ではないかと思っております。プレゼントそのものが江府町の息吹を感じさせるパンフレットになっており、本当にうれしく思いました。これから我が町江府町が伸びていくためにもふるさと納税、そして、江府町を多くの国民の人が好きになっていただくようなふるさと納税になり、長い付き合いがしていただけるような、親戚同士のようにつき合いができるようになり、十七夜の晩やスキー、紅葉、残雪の大山に訪れていただきたいといふふうに思っております。人口はどうしても減るわけでごさいます、交流人口をどうふやしていくかということが、これからの江府町の展望にもなろうといふふうに思っております。

ふるさと納税につきまして、今日までの庁内の分析と今後の見通し、抱負について、町長の御助言をいただきたいといふふうに思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） ただいま田中議員のほうから、ふるさと納税について御質問、御助言というお言葉もございましたけども、私の考えなり、今後に期待するところを述べたいと思います。

先ほども御質問の中にごさいました、本町のふるさと納税は平成20年度よりやらせていただいております。平成27年度、今年度で8年を経過いたしました。おかげさまで、年々、ふるさと納税の納税をいただく皆さんがふえておることは、大変感謝にたえないところでございます。8年間の寄附総額は3,630万ほどになっております。一部は使わせていただきながら、基金、今、積立総額は2,930万ほどになっておるところでございます。延べ件数は28年の1月末現在で、2,950件に及んでいるところでございます。寄附をいただいた皆様の意思を尊重いたしまして、今後も有効活用していかなければいけないといふふうに考えるところでございます。

ただ、ふるさと納税のあり方についてはいろんな視点があろうと思います。それは人それぞれお考えになることで、地域の財政支援をいただく、一方では、潜在的な新たな町民になっていただくということもあろうと思います。また、私は江府町を商品と考え、イコール奥大山と申し上げておりますが、これのPRを行い、それに御賛同いただくという方々、全国に広まっているん

ではないかというふうに思います。特産品ということで、それぞれ寄附額によってプレゼントを準備をいたしてるところでございますが、その御希望の内容を見ますと、本町に本当にふさわしいというふうに思いますのは、水の商品が69.2%を占めておるところでございます。御承知いただきますように、江府町は水の町として一生懸命頑張ってるわけですが、この実態も明快にあらわれてるところであります。

今後につきましては、今は1万から3万円をいただきますと1品というような、それ以上は2品というような制度にしておりますけども、やはり不公平感といいますか、そういうものがないように頑張っていかなければいけない。あわせて期待しておりますのは、これのプレゼント商品について、新たな特産品が次々と開発されておると、そして、プレゼントの商品が広がっているということは大いに今後期待すべきですし、そのような努力もしていかなければいけないというふうに思います。今後は江府町自体を、奥大山自体を商品として全国の皆さんにPRをしていって、応援をいただくようなこともしなければいけない。そして、三千数百人の町が2,950件、御寄附をいただいている。考えようによっては、この方たちは江府町の応援団、新たな町民としてパイプを将来までつなげていく努力もしていかなければいけないというふうに考えます。

また一方、27年度で実施いたしました江府町民俗資料館の改修のためにガバメントクラウドファンディングを実施いたしました。約300万近い応援をいただいたところでございます。またこのような手法も取り入れながら、多くの皆さんと町がつながっていくことに期待をしたいと思います。今後もしっかりと努力をしてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

田中幹啓議員。

○議員（8番 田中 幹啓君） 先ほどは申しませんでしたけども、今年度から企業納税といいますか、ふるさと納税が始まるようでございます。それには物を贈らなくてもいいということでございますから、今、江府町も、名前を出して悪いですが、サントリーを初め、グリーンステージ、いろんなつながりができておりますから、少しアップした金額を、あるいは中電とのつながりもありますし、そういうことも研究材料として考えていただき、将来は納税の中に、今、税金を払っておられますけど、それ以外に幾らかのふるさと納税を展開していただけたらなという気もいたしておりますので、町長の見解を伺いたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 新たにふるさと納税企業版というのも動きます。このことについては、実は事前にいろいろと協議等も進めておるところでございますので、いずれ皆さん方、議員の皆さん、町民の皆さんに御披露できるような状況も生まれるんだというふうに思っておるところでございます。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

○議員（8番 田中 幹啓君） 結構です。成果を上げていただく。町、町民自身が自信を持っていただく。ことし納税された人が長く続いていくような、町民を愛し、町を愛するようになりピーターになっていただくように。さっき町長がおっしゃいましたように、別の町外町民というか、意識の中には江府町ということはずっと心の中にあるということまで究極はなっていければいいなというふうを感じるものでございます。1問については終わります。

○議長（川上 富夫君） それでは、次の質問を行ってください。

○議員（8番 田中 幹啓君） 次の質問をしますが、質問する前に、私のほうが間違っと思ったと思いますが、無電柱化ですけど、柱ですから、これ字が間違いですので、直してください。これは笑われると思いますから、今は私の間違いではなかったかというふうに思っておりますので、申しわけありません。

それでは、次の質問に移らせていただきます。無電柱革命といいますか、無電柱推進といいますか、これについて質問いたします。

町の景観を一新し、安全性が高まる事業であります。本町では貝田集落が電柱のない農村風景を醸し出しています。大山の南山麓とマッチして、何とも言えない風景です。集落の人々が大変な協力をし、御努力をされたということを伺いました。日本でも震災後、安全性の見地から、元環境大臣の小池百合子さんが中心の人物の一人として、無電柱推進に関する法律案ができたようでございます。神戸の大震災のとき、通行できないのは電柱もかえって大変な状態になったという現実を見て、こういう発想になられたではないかというふうに思います。機運は少しずつ上がっていると思います。日本では、驚くなかれ、3,500万本の電柱があるようでありましたが、中国のリゾート地では、電柱は見かけないと言われていました。施策として展開してきた結果でしょう。

ところで本町では、大山をバックにして正面に電柱、電線が気になる、景観を煩わせてる場所もありますが、例えば米沢に向かって市ヶ坂から見る左手に電柱の線が、電柱が立っています。あれがなく、上に向かう人が大山を見たらすばらしいなど。米沢に向かって右側の田んぼのほうに電柱が、道路がよぎるかもわかりませんが、立てっていたら、また別の景観になっておったんではないかと思えます。

しかしながら、現実には大きな障害がございます。無電柱化については、大きな障害がございます。調べてみますと、1キロ当たり、地下に埋めるのは4億かかるという試算があり、大変なこととあります。各自治体は即やらなければならない問題が山積みでありますから、そうやすやすとこの事業はできるとは思ってません。しかし、必ずここ数年、10年以内にこの法案は動いてくると感じております。本町もアンテナを高くして、ソフトに当たる景観のところだけでも、農村風景、原風景を見せてほしいものであります。のどかな水と緑、歩く町として売り出せば、長期展望に立つことも肝要ではないかというふうに思っております。今、出されておる江府町の将来に対する長期計画にはこのことは載っておりませんが、ひとつ組み入れていただき、検討していただき、将来展望に立って、財政は大変なことになるかもわかりませんが、国の動きと合致させながら展望をつかんでいただきたいというふうに思う次第でございます。

奇想天外なことを申し上げましたが、全国では200キロを超える、約300キロの無電柱化が進んでおるようございまして、2,000万ぐらいの予算が組まれているようございまして、徐々に、特に災害のあったところについてはそういうことが今後展開されていくというふうに私は思っております。どうかよろしく願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 田中議員のほうから、続いて、美しい町、安全な町を目指して無電柱化を進める考えはないかということでございます。

御質問にございましたように、本町の大きな財産に景観がございます。大山南壁、また鳥ヶ山をしたこのロケーションというのは、他に類を見ない景観、財産だというふうに思います。これらをきちんとした保全の中で意識を持ちながら対応するべきだというふうには同じ考えを持ってところでございます。確かに場所的には写真を撮りにおいでになる方、絵を描かれる方は消やかすことができるんですが、写真の方は消えませんので、ここに電柱がなかったならというお話もでございます。貝田地区は本当に御努力になりまして、今でも自信を持って無電柱の中で、背後に大山南山麓、鳥ヶ山を配した、すばらしい水田とのマッチしたロケーションが保たれているところでございます。是が非でもそのようなまちづくりができればと思いますが、御質問にもございました費用面を、電気事業連合会というものが、資料を出していただいておりますけども、それを見ますと平成21年度以降には無電柱に係るガイドラインというものが発表されています。そこで質問にもございましたように、大体キロ四、五億円かかるようございまして。米子市なんかを走っておりますと、本当に電柱がないきれいな通りになっておりますけど、共同溝、上下水

道とかほかのものと共同溝を掘ってやる場合は約半額で、2億から3億でできるらしいですけども、なかなか本町ではそういうわけにいきませんが。やはり議員がおっしゃったように、スポットで本当に必要なところ、これは空中線をつけかえることも経費的には軽減できるんじゃないかと思いますが。例えば今、私が一番気になってますのは、中学校の跡地、今後、住宅用地とかいろいろなことで今議論しております。あそこから見る大山というのも、夜振橋を手前に江尾を、町を見ながら、すばらしいところ。ただ、残念ながら、日野川沿いに電柱が走っておりまして支障がございます。ああ、この電柱、電線がなかったならなという思いはいたしております。これらも地中化するのか、逆に国道沿いに電柱を持ってきて支障を除くかということで考えていく必要はあろうかというふうに思います。なかなか地中化については、投資という部分ではすぐ動いてこないわけですけど、空中線をつけかえることによって、それぞれの撮影ポイントと景観の大切な場所は考えていく必要があろうというふうに考えております。

お考えに対しては私も同感をいたしておるところでございますけども、諸事情の関係で、この江府町の景観財産は守っていく、よりいいものにしていくということは必要だというふうに思っております。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

田中議員。

○議員（8番 田中 幹啓君） 去年でしたかね、黒川温泉に行きました。湯布院に勝つなんていうことは考えられなかったけれども、中国人たち、人も大変たくさん来ておられましたし、やっぱりまちづくりにこだわったポリシーを持って、湯布院に負けないんだと、一緒に発展するんだということで、本当に原風景を残しながら、どう町を築いていくかという理念が私はあつたないふうだと思います。これからのまちづくりというのは、心をリフレッシュする、来てみて農山村の原風景に出会う、本当にのどかな、よかったな、リフレッシュしたなというようなまちづくりが、にぎやかなところはにぎやかなところであればいいですけども、江府町の売りだというのは、そういうことではないかなというふうな気がいたしてるものですから、電柱問題について質問させていただきました。終わります。3番目に入ります。

○議長（川上 富夫君） では、次の質問を行ってください。

○議員（8番 田中 幹啓君） 奥大山のアピールについて伺います。

さっきも町長の話もございましたが、あなた方は恵まれているな、あなたの町の景色は額に入れる風景だ、うらやましいなと言われた言葉を思い出しております。この景色、風景、どう売り込むか、どう町に活かしていくのか。

そこで提案がございます。道の駅もできました。そして、いつか話したことがございますが、赤穂から300回も江府町に写真を撮りに来られた方もありました。毎日新聞が中心になって、大阪の北川さんというのも江府町を訪ねられて写真集も出しておられます。私は、一度やられたことがあるかも知れませんが、いろんな人に、恐らく我々が気づかない人が江府町の写真を持っておられると思う。そういう人に出していただいて、絵は盗んでしまわれたら大変な損失になりますけど、写真は、悪いことですが、もし盗まれてももう一遍再生できるということもできますので、いつか場所を見て、江府町内にも何万枚も写真を持っておられる方がおられます。そして、日野町の方も江府町の景色をいろいろ写しておられる。こういうもので一度呼びかけて、写真の展示会をされたらどうかと思います。そして、来賓者を中心になって、この1番、2番を選んでいただいて、専門家が見るのではなくて、一番心に響いた写真にチェックしていただいて、そういうものを中心にして10枚程度、ポストカードを、道の駅を中心として、エバーもありますし、奥大山もあります。今、大阪の人のポストカードはありますけれども、江府町独自の手づくりのポストカードをつくってあげたいという気がいたしておりますので、町長の見解を伺う次第でございます。

それから、私は一度質問したことがありましたけれども、それは写す人が探せばいいということでございました、一番景色のいいところを探せばいいということでございましたが、例えば大阪から来たとか、九州から来て、ここを何時間も歩いて探すよりも、ある程度、10や15ぐらいはリストアップしておいて、それから季節は、例えば七色ガシは5月、6月がいいというようなことを、秋に来て七色ガシが写せるかということ、ないわけですから、そういうことを出す。それから、残雪の美しさというのもPRする。ですから、マップに少し工夫をして、来られた人がこの季節に江府町に来てみたい、秋の紅葉じゃなくて、今度は残雪の美しさに来てみたい、そういうような季節季節の書いたパンフをつくっていただけたらなというふうに思います。既に、できてるということじゃなく一歩踏み込んでいただいたマップをつくっていただきたいなというふうに思います。そういうものをこのふるさと納税に感謝を込めて贈る、町報も送る、そしてリピーターとして定着する。そういうことが大切、一過性のもので終わっては非常に残念でございますから、そういうことを総合的に戦略として考えていただきたい。

私の3つの質問の中に流れておるのは、江府町に生まれて、やがて江府町で幕を閉じる世代も、もう70近くになりました。何ぼ生き抜いても30年、あるいは20年かも知れませんが、10年かも知れませんが、やっぱり江府町が好きです。このことを誇りに思いながら質問をさせていただきました。少しセンチメンタルになりましたけれども、江府町が少しでもよくなり、人口

が定着、各家々を見ますと本当に10年先、どれだけの人がここで生活をするんだらうか、交流人口をふやさなければ町は沈んでしまう、こういう気がひしひしとしておりますから、今回の質問になった次第でございます。よろしく願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 田中議員から3点目といたしまして、奥大山のPRについてそれぞれ3項目、御質問をいただきました。

まず1点目は、大山の写真展の開催についての御質問をいただきました。江府町は、先ほどから、当初からの御質問でございますように、やはりすぐれた景観、これが大きな江府町の財産でもあると思います。これらをいかにPRをし、町の活性化につなげていくかということは本当に大切なことだというふうに思います。過去には世界的に有名な写真家、丹地先生による鍵掛峠の紅葉写真が羽田空港のロビーに飾られております。また、いろいろ写真家の皆さんの写真を活用して、町の職員の名刺とか、いろんなものに活用されPRをしながら、誇りに思っているところは事実でございます。過去には、平成14年度に国民文化祭が江府会場において行われたときにも写真コンテストをし、当時は私もかかわりましたが、江府町のすぐれた財産を写真を好きな方々の目線でたくさん見つけていこうと、発見していこうと、そのためのコンテストにもなったというふうに思います。おかげさまで、版權を頂戴いたしましたので、江府町のパンフレットなり、各方面で使わせていただいていた経過もでございます。

御承知いただきますように、今、地方創生、その戦略計画には奥大山の資源を活用して、人が集う町というメインテーマが掲げられておるところでございます。このような時期という部分を考えますと、もう一度、御質問ございましたように、しっかりと考えながら、江府町を売っていく一つの財産として見詰め直して、それをPRできる施策を講じなければいけないと、その点について、3点について御質問というか、そういうことをやっていくべきではないかということをお伺いしたわけでございます。

今、大山山麓地域では、大山環状道路の社会実験や、平成30年には伯耆の国大山開山1300年、そして今、国立公園80周年と、いろんな節目の年でございます。そういう意味においては、写真展というのも一つの手法として必要な部分もあろうと思います。

私は、過去から御進言をいただいた方がございます。このような財産の中で、写真家と絵画を愛する人にたくさん来ていただいています。そういうことから、写真と絵画の町、奥大山というメインテーマを掲げたらどうかという御提案もいただいていたところでございます。今現在、御机

地区に分校を改修いたしましたして、皆さんがトイレを使われたり、雨宿りをされたり、施設がようやく完成をいたしております。いよいよこのテーマを打ち上げる時期に入ってきたかなというふうにも感じてるところでございます。ことは雪不足でございます。残雪になりますと、絵を描かれる方が山陽方面、関西方面からバスや自家用車でたくさんおいでになります。地域の皆さんの御理解も当然必要ですけども、町民皆さんと一緒にPR、またそういうサービス施設なり、サービスを心がけていかなければいけないというふうに思っております。

笑い話ですけど、町民の皆さんにもやっぱり理解をいただきたいと思っておりますのは、以前、福山のほうから写真を撮りに来られました。町民の皆さんに、この写真、どっから撮ったものだろうか、大山の表の写真だけどねという御質問をされたそうです。そうしたら、町民の皆さんが、大山の表は大山町のほう、北側だよという御案内をされた。だけど車で走ってみると、どうも山が違うということで、また江府町に戻ってこられた。今、米子道が開通いたしましたして、山陽、関西の方が最初に、自動車であらわれて大山の姿を見られるのは南壁でございます。ですから、関西、山陽の方は、これが表だと、初めて出会う大山だと。だけど地元は、昔から日本海側が表、私どもが裏というのが高年齢になるほどしみついてるわけです。そんな笑い話もございました。そういうこともございますけども、しっかりとやっぱりPRして行って売っていかねばいけない、最初の質問にもございました、そういうことにもつながっていかねばいけないと思っております。

ポストカードも実際には過去やったことがございますけど、おっしゃっていただきましたように道の駅がオープンしております。今は観光協会でクリアホルダーとか、缶バッジとか、そういうふうには観光協会の職員が頑張っておりますして、販売含めてPRをしておりますけども、これも、ポストカードも一つではないかというふうには考えてるところでございます。また観光協会のほうに御提案申し上げて、そのような品物ができることも期待をしたい、その前段としてコンテストを行いながら、よりいい写真を見つけていくということも必要ではないかと思っております。

それから、3点目の写真つき奥大山マップです。いろいろ奥大山物語とかマップは奥大山の江府町マップ、いけばロケーションのきれいなところにはカメラのマークで、ここで写されればいいですよということをやっておりますけども、御提案ございました写真等もつけて、より親切に御案内する、より気づいたマップというものも今後より一層必要になってくると思っております。ただ、マップは江府町だけをつくってもいけませんので、鳥取県西部、また蒜山や、幅広い中で江府町をしっかりとPRする、そこに写真を取り入れるということも、次のステップとして私も担当課のほうにおいて検討をさせていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

田中幹啓議員。

○議員（８番 田中 幹啓君） 増田総務大臣の2040年の人口問題、こういうことから一気に危機感を持って全国市町村が動き出したという感じがいたしております。もっと速いスピードで、今後、まちづくりについてはアイデアを出したところ、真剣になったところが成功して、格差がどんどんついていくというふうに思っております。

話は変わりますけれども、大山に雲がかかっておりました、見えなかったです。御机の下で絵描きさんが2人、絵を描いておられました。どこを描いておられますか、城山を見て、大山を描いてるって言われました。笑い話みたいなもんですけど、よその人は、あれが大山だと思っていたと言われてびっくりしました。だけん、きちんとしたものがないと私はいけんと思いました。中には、山桜が、田んぼの水面に散り行く山桜が田んぼに落ちて、花びらがきれいなとこや大山の残雪の絵が田んぼに逆さま富士のような形で映っていると、本当に我々がふだん気をつかいないところを大山は持っているという気がいたしております。本当に今、我々も晩年になってきて大山のよさというものを改めて認識いたします。日野町の人は、江府町は大山があっという間といっことを合併のときに言いました。これがうちの町の財産だということを言った人もいましたけれども、やはりこの財産を生かすことだと思っております。サントリーもグリーンステージもやはり物語が語れる場所に建てたと思っております。私たちはいろいろ危機感を持って、知恵を出し合って、協調の輪の中に本当に誇れる町をつくっていくということを竹内町長にもいま一度訴えて、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（川上 富夫君） 竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 今、田中議員さんも江府町の未来ビジョンづくりの委員さんだと思しますので、先ほどおっしゃっていただいたような思いをしっかりとその場所を出していただきまして、未来ビジョンの中に取り込めていければいいのかなというふうに思いますので、御期待を申し上げます。

○議員（８番 田中 幹啓君） ありがとうございました。

○議長（川上 富夫君） これで田中幹啓議員の一般質問は終了します。

○議長（川上 富夫君） 続いて、質問者、三好晋也議員の質問を許可します。

1番、三好晋也議員。

○議員（1番 三好 晋也君） 本日、私のほうからは、ずばり町長の進退について伺いをいたします。

本年、7月末をもって町長の任期が切れます。竹内町長は3期12年にわたり、町政のかじ取りを担ってこられました。その間、厳しかった江府町の財政を健全化、そして安定化に尽力されました。その成果については誰もが認め、評価しているところであります。一方、町長自身の悲願でもあった中学校の新校舎建設により、江府町におけるすばらしい教育環境を整備されました。また、4名のとうとい犠牲者を出した奥大山スキー場の雪崩事故の犠牲者に対し、哀悼の誠を尽くし、二度と過ちを繰り返さないとの強い決意も示され、犠牲者とその遺族に対する慰霊活動をいまだ続けておられます。町長の立場を超えた御苦労や御努力に対し、私自身、敬意を表するものであります。

さて、町政に目を転じれば、今後ますます進むであろう少子高齢化社会において、住民福祉の充実や本町役場本庁舎の移転、新築問題、農林業の振興策等の全てを網羅するまち・ひと・しごと総合戦略など、財政健全化をにらみながら事業を展開していくことは、町政のかじ取り役としての町長の職責は余人をもってかえがたいと思います。

そこで、竹内町長は本年7月に予定されます町長選挙に四たび出馬し、引き続き町政を担うお気持ちがあるかどうか伺いたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 三好議員さんのほうから、7月に満期を迎えます町長選につきましての出馬の意思ということについての御質問ございました。

私自身、12月に竹茂議員からその進退について一般質問を受けました。そのときの答弁といたしまして、いましばらく熟慮をさせていただいて、時間をいただきたい。遅くとも3月議会にはその進退を明快にしたいという御答弁を申し上げました。それ以来、年明けからいろいろと私自身も平成16年8月に就任をさせていただいた当時のことを振り返りながら、また今後の江府町のことを考えながら、親しい人に相談もしながら進めてまいりました。その結果、私自身は7月の満期をもって退任をするという意思を明快にさせていただきました。4選を目指しての出馬はしないということに決断をいたしました。その思いの一端を述べさせていただきます。

世の中には初心忘れるべからずという言葉がございます。当然、初心を描き、それを貫徹するために誠意を持って努力をするということでございます。そういう、振り返ったときに、平成16年7月の選挙に出馬をいたしました思いというものは、実は町の職員、昭和47年に役場にお世話になって当時31年、行政職としてエバーランド奥大山、国民宿舎なり、スキー場の勤務も経ながら総務課長として勤めさせていただいておりました。当時は、御承知のように、前福田町

長が就任をされておりました。また、合併議論の真っ最中でございました。江府町としては他町との合併を議論されておりましたけども、住民投票の結果、単独で、小さくても頑張っていこうという町民の意思表示がなされ、そして、前福田町長は大変体調が悪うございましたので、4期3年、1年を残して勇退をされたところでございます。当時、私も31年間、行政にお世話になって、これからの自分の人生というものはどうだろうかということ振り返ってみました。31年お世話になったと、何とか行政に自分なりの、実力はないにしても、御貢献する方法は何かということで決断をいたしまして、出馬をいたしました。

当時は、御承知のように、単独行政を推進する小泉内閣の三位一体改革、大変地方にとっては財政的には厳しい状況でございました。行財政改革が柱になり、当然、行政職に携わる職員の皆さん、また町長みずから、特別職、そして議員の皆さん、町民の皆さん、みんなで何とか財政を健全化しようという汗をかかせていただいた、本当に江府町一丸となってやってまいりました。当時、議会にもお願いしましたことがございます。幾ら厳しくても、町民の皆さんの生活改善だけはやらせてください、下水道事業だけはやらせてくださいということで、現在、下水道も農集でやれるところは全部終わりました。合併浄化槽が一部残っておりますけども。また、上水道、水道につきましても、おかげさまで27年度をもって全町町管理水道に変わってまいりました。そういう中で、本当に努力をしてみんなで頑張ってきたわけですが、考えてみますと、おかげさまでその成果があらわれ、財政健全化というところにつきまして、ほぼこれから見通しがついたのではないかなと。厳しいには変わりなくても、当時に比べれば初心が貫けたのかなという気持ちになりました。

後ほど竹茂議員さんのほうから、財政のことにつきまして、起債の状況なりの質問ございますから、数字はそこで申し上げたいと思いますので、御勘弁をいただきたいと思います。

次に、2点目でございます。質問にもございました。私の現在までの人生、これからの人生で、やはり一番重たかった、重たいと思っておりますのは、平成22年3月31日午後のスキー場雪崩事故でございます。まだまだ将来がある4名の皆さんのとうとい命が失われたということでございます。御承知いただきますように、当時は豪雪で、新年にわたりまして米子周辺におきましても相当な積雪がございました。9号線も1,000台というような車が立ち往生したという実態がございます。そういう中の、私はスキー場自体、いろいろ裁判等もございましたけども、自然災害ということではございましたが、やはり町の責任者としての考え方というものを当時悩んでまいりました。3期目を目指すに当たり、一度は議員の皆さん、町民の皆さんに責任をとりたいということを申し上げたわけでございますが、多くの皆さんからお叱りを受けました。まだ遺族と

の対応が残ってるじゃないか、この御遺族の4名の皆さんにきちんと対応することがおまえの仕事だと、それで初めて退任、責任が果たせるんじゃないかということでもございました。そのゆえを持って3期目に挑戦をさせていただき、今日まで務めさせていただきました。一応、御遺族の皆さんへの対応は終わりました。これも大きな節目ではないかと思います。ただ、これからの人生を含めまして、私にとっては当然忘れないし、4名の亡くなった若い人たちの御冥福は今後も将来にわたって努めていかなければいけない責任があらうかというふうに判断をいたしてるところでございます。

3点目といたしましては、第1点目で申し上げました財政の見通しというものがということがございます。一方では、先ほど御質問ございましたが、地方創生、奥大山の恵みを生かし、人が集う町という、いよいよスタートをいたしました。また、本町では27年度末で総合計画4次が終わりますので、新たな28年度からの将来ビジョンを、今、委員さんで議論を始めていただいております。新しい江府町の時代が来つつあると、その中で、おまえが最後までやらにゃいけんじゃないかという御意見もいただきましたけども、やはりしっかりと若い世代にきちんとバトンタッチをさせていただいて、田中議員からもございました、一呼吸する間はないんです。知恵を出し合ってきちんと進めていかなければいけない重要な時期でございますので、若い世代にしっかりと、7月まで務めさせていただいて、バトンタッチをしていきたいというような思いになりました。

以上、3点ほど思いを申し述べましたけども、そういう決断の上で、このたび7月で退任をさせていただき、次期選挙には出馬しないという意思になりましたことを御報告させていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

○議員（1番 三好 晋也君） ありません。

○議長（川上 富夫君） これで三好晋也議員の一般質問は終了します。

.....
○議長（川上 富夫君） 続いて、質問者、三輪英男議員の質問を許可します。

3番、三輪英男議員。

○議員（3番 三輪 英男君） 質問に入る前に、ただいま町長のほうから、本当にこれは厳しい決断ではなかろうかなという感じをいただきました。まことに3期12年、本当にありがとうございました。我々議員もその思いをきちっと受けとめて、今後の議会活動、議員活動に精進してまいりたいと思います。

時を同じくして、東北大震災から間もなく5年を迎えようとする、こういう厳しい状況の中、特に私のふるさと、きのう、きょうと報道されましたけど、まだまだこれからというところの思いがあるようでございます。そういう中で、江府町が今後どうあるべきかということについて、何点か町長に御質問を申し上げたいと思います。

まず、一番最初でございますが、少子高齢化時代の人口減の歯どめ策として期待されるだろうと思います。出産祝い金交付事業について、出産祝い金といいますが、1子、2子じゃございません、3子、4子、あるいは5子という御希望の親御さんもおられるかもしれません。そういうことについての御質問でございます。当然ながら江府町でも出産祝い金を支給されております。そういう状況下の中で、各自治体の取り組みはということでちょっと調べさせていただきました。北海道福島町では、第1子、5万円、第2子、20万、第3子、100万という、とてつもない数字が上がっております。ただ、交付状況といたしましては、1人目に5万といいますが、うち町内商品券での支給が30%、2人目、20万という中身は、同じく町内商品券での支給が30%、3人目、大きく100万と言っていました。うち町内商品券での支給が30%ということの割合になっております。恐らく町内商品券の支給というのは、地域経済の活性化に大きく寄与するであろうという観点からはなかろうかというふうに思っております。それで、3人目の大きな100万という数字は、交付割合としまして、第1回目が50万、第2回目、30万、第3回目20万というふうになっておるようでございます。また同様に、宮崎県椎葉村では、すこやかな祝い金という名前の出産祝い金を支給し、第2子まで1人につき10万、第3子は50万という大きな枠組みになっているようでございます。また、岡山県高梁市では、第4子に、先ほど福島町にありましたように大きな金額が、100万円ということを示されておられます。高梁の出産祝い金については、従来、第2子までは1人につき2万円、第3子以降は1人につき3万円だが、2015年度からは第3子、50万、第4子以降は各100万円に引き上げ、第4子以降の100万円の支給方法として、出生時に20万、1歳の誕生日祝いとして40万、小学校入学時に40万を分割して支給されております。その他、いろいろ引き合いに出してあれでございますが、鹿児島県大和村、北海道松前町、熊本県産山村では、出産一時金として第1子出産で200万円が支給されておられます。事ほどさように少子化対策として各自治体の子育ての出産祝い金に重点を置いていることが際立っているように感じられます。

江府町におきましても、人口減少の歯どめだけでなく、安心して第3子、第4子と子供さんをたくさん出産できる環境を構築することで、保育園から小学校、中学校の子育て支援と相まって、よりよい子育て環境が充実していくものと期待するところです。もちろん高齢者に対する支援も

大変重要だと私は認識いたしてるところでございますが、これからの江府町を支える子供たち、そしてその子供たちを支える若いお母さん、お父さんの夢をかなえていくことも一つの人口減少の歯どめ策ではなかろうかというふうに期待するところでございます。数字を申し上げましたが、他町は他町として、江府町の子育ての環境のさらなるイメージアップを図っていただきたいと考えますが、町長の御所見を伺います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 三輪議員さんのほうから、出産祝い金の交付事業についてということで、全国的な実施状況について、金額を中心にお話がありました。本町は、現在、お祝い金1万円、そしてお水1年間分、そしておしめ等出てまいりますからごみ袋200枚ということでお祝いをしているところでございます。やはり金額の大小の議論はございます。過去にはもう少し出しておいた時期がございますけど、行政改革等で縮減をさせていただいたということもございます。水の町ということで、当然、お母さんの母乳のため、子供さんのミルクのためということもございましたけども、お水を1年間分持っていくことにしております。そして、できるだけ私のほうが、先般ちょっと都合がつかなかったんですけど、直接お宅のほうにお邪魔をいたしまして、お祝いを申し上げておるところでございます。

ただ、人口減少の中で子育てという部分でございますけども、地方創生の中で実施しておりますことをもう一度認識をしていただきたいと思います。結婚から高校生までが私は子育てだということで、委員さんにも御議論をいただいたところでございます。その一つとして出産祝い金、そして、産まれる前の妊婦さんには、米子まで交通費が相当かかります、その一部を御支援申し上げます。また、その前には御結婚、転入をいただくわけですが、祝い金の制度をつくりまして、現在6名の方が転入されて、27年度予算が足りないということも起こっておるのが正直でございます。そして小・中学校入学に際する、心の、気持ちの問題でございます、金額の大小ではないと思います、お祝いをさせていただいております。そして高校生は、町内に高校ございませんから、多額の通学費が要りますので、その一部を御支援すると、総合的に27年度から実施をいたしております。このような、当然そこには保育料の無料と、無償化ということも大きなウエートを占めてるわけでございます。

そのようなトータル的な状況の中で、出産祝い金だけではなくて、そういうような状況の中で判断をさせていただいて、その実は少しずつあらわれてきてると思います。これは単発的ではなく継続的に、財政の状況も勘案しながら、しっかりと進めていっていかねばいけないという

ふうには考えてるところでございます。ただ、1子、2子、3子、4子、同じ金額をしとりますけど、これでいいのかということはまた御議論を今後するべきところはあるんじゃないかと思っております。

参考までに、21年度から26年度にかけて数字を拾ってくれてますが、第4子は21年、22年にお二人でございました。大体今多いのは、3子の方が多い、3人のお子さんをお持ちになるというのが多いようでございますので、その辺はめり張りをつけることも検討すべきではないかなと思っております。県内の状況もばらばらでございます、大体最高5万円、3子以上が5万円というのが例になってるようでございますけども、全然やってない町もございます。ただ、御理解をいただきたいのは、結婚から高校生まで、地方創生を機にしっかりと子育て対応し、町から出ておられる皆さん、Uターンをしていただきたいとかいろんな思いでございます。その施策を講じたことによって現実に、実績は少しずつですけど、あらわれていることも御報告をして、答弁にかえさせていただきます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

3番、三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） ありがとうございます。

今、御答弁の中にありましたことについても、私も共有することございまして、決して子育て世代のために支援が行き届いてないということではございませんで、やはり第4子をお産みになった方からの切実な声として受けておりましたんで、今後そういう形で、少なくとも財政的な支援が増額できるんだという方向性が、そういう住民に浸透していけばまた違った展開が生まれるのではなかろうかというふうな感情を抱いております。いずれにしましても、厳しい財政の中でやりくりをするわけでございますから、理解をしていただいた中できちんと人口減の歯どめ策として期待するものも当然かというふうに思っております。以上です。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 三輪議員の思いもよくわかりますし、実際にお子さんをお持ちの方からの切な思いということもお聞きいたしましたので、できれば3子以上についてのめり張りということはやっぱり検討してみる必要はあろうかと思っておりますので、指示を出していきたいというふうに思います。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

○議員（3番 三輪 英男君） 結構です。

○議長（川上 富夫君） では、次の質問を行ってください。

3番、三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） 次に伺います。平成28年度の主要な事業概要から見えてくるといことでお尋ね申し上げたいと思います。

1点、農業公社に関する事項でございます。平成28年度の事業概要にまとめられております農業ビジネスサポートスクールについてお伺いいたします。これまで農業公社の改善には、いろんな立場の方がそれぞれに提言されて施策をしましてまいりましたが、一般質問においても私もたび重なる公社に対する改善策を申し上げてきたところでございますが、やっとの思いといいますか、そういう形でこのたび農業ビジネスサポートスクールというものについて予算化をされるようでございます。この機会にぜひとも職員、作業員の方々のスキルアップにつながるよう関係者が一丸となって取り組んでいただきたいと思います。

そこで、農業大学校で取り組んでおられるスキルアップ研修、これは12カ月長期研修や、同じく農業大学校で行われている短期的な研修で、先進農家実践研修でスキルアップの増進を考えておられるのか、また、それとは違った活用方法で生かしていかれるのか、詳細の説明を求めたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 平成28年度、主な事業概要から見えてくる問題点についての質問をいただきました。

特に農業ビジネスサポートスクール、つまり農業公社のさらなる活性化につながる、これは農業公社だけを考えたものではございません。本来的に江府町の担い手、そういう人たちを育てていこうという観点から、当然農業公社も含むものとして考えております。平成25年度から5年計画で県の御支援をいただいておりますが、がんばる地域プラン事業の内容を一度見直しをいたしまして、このビジネスサポートスクールについてやっていこうということでございます。今、取り組んでおりますのは、ブランド米として奥大山プレミアム特別栽培米の開発と推進、新しい地域特産野菜としてコンニャク芋の普及また加工の検討等をやってるところでございます。3年間やって取り組みを行ってきた中で、より直接的に課題解消に取り組む必要性を感じ、人材育成を計画いたしましたものでございます。時期とすればおくれておるのは事実かと思いますが、しっかりと町内農業者を対象とした取り組みにしていきたいと思っております。

主な内容としては、新規就農者のコース、担い手・経営者コース、集落営農コースの3コース

を設けて、外部講師をお招きして講習会等の座学を中心に行いたいと考えております。農業大学の件も必要に応じては、当然一緒になって派遣をするようなことも起きると思います。さまざまなビジネスモデルの事例を通じて経営感覚の習得を中心に学び、経営計画書の作成や、特に財務諸表の見方や作成ができる人材の育成を行ってまいりたいと思います。また、講習会参加者個々に対するコンサルティング、相談事業も計画をしまったり、先進事例の視察研修等も実践的に行ってまいりたいと考えておるところでございます。講習参加者を中心にしたネットワークや農業研修、また切磋琢磨していただくような仕組みも必要ではないかというふうに思っておるところでございます。あわせて新規就農者の確保、担い手農家の育成、集落営農の推進等図っていければと思っております。集落営農、今度、お聞きしますと3月末には杉谷集落が法人化というようなことで、新たに立ち上がってくるようにお聞きをしておるところでございます。当然農業公社の職員も一緒になって学習して、よりスキルアップを図っていきたいというふうに考えておるところでございます。

以上、1点目でございますね。以上、答弁にかえさせていただきます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

3番、三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） 再質問とって用意してましたが、もう先に町長さんのほうからお答え頂戴しましたので、確認の意味で。

やはり公社についてはいろんな問題点があるかと思えますけども、しかしながら、そういう中で例えば農業委員会の提言書等、または我々議会の地方行政視察、また近隣の町村の成功例等をしっかりと検討されて、そして、江府町の一般財団法人農業公社としての存在感を示すには緊張感を持って、業務はもちろん、先ほど町長が言いましたように、とりわけ財務管理につきましては特段のきめ細やかな対応を願いたいと思います。このアグリビジネスサポートスクールをきっかけに、全庁挙げての取り組みをぜひとも推進していただきたいというふうに思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 農業公社中心に考えますと、大変御心配、御迷惑をかけてる部分、財政的な部分もでございます。ただ、おかげさまで、いろいろ12月にも御質問いただいたり、いろいろ指導いただきまして、経営的には改善の方向に向かっているのが現状でございます。25年度はちょっと特殊な事情がございましたので多額の損失が出ましたけども、その損失も年々減少を見ているところでございます。

ただ、12月にも申し上げましたが、農業公社というのは、正直言って、309ヘクターある水田のうち67.9ヘクター、約22%の作業受託をさせていただいております。なかなか利潤が生まれにくい業務だというふうに考えております。ただ、まだ頑張る部分というのはあろうと思いますので、これからしっかりと対応していく必要があると思います。

また、担い手に単町で10アール4,000円の応援をしておりますが、これにつきましても51名、面積でいいますと67.6ヘクター、つまり、公社と同等の面積を担い手の皆さんが自分の農地以外に請け負っていただいているわけです。合わせていきますと、大体50%、半分近いところは公社と担い手の皆さんで何とか対応していただくとというのが現状でございます。財政的には大変御迷惑をかけて、御支援をいただくような、このたび補正も出させていただいたことでございます。ただ、農業にどうしても、町の基幹産業でございますので、財政的にはウエートがふえるわけでございますが、地方創生の中で商工業者の皆さんに対しても地域のチャレンジとか、いろんな形でのバランスのとれた財政計画ということも多少配慮をしながら考えてるところでございますので、何分とも御理解を頂戴したいというふうにお問い合わせを申し上げて、答弁にかえます。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

3番、三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） 先ほど、町長のほうから先に言われましたんで急とは思いませんけど。ここで、再々質問のところで言わせてください。

○議長（川上 富夫君） はい。

○議員（3番 三輪 英男君） 27年度から導入されました江府町経営体支援補助金、256万円の事業ですが、これは先ほど御答弁にありましたように、10アール当たり4,000円と、単町ということで支援をするというようなことで、昨年度も町長が力説されましたように、今年度もそういう形で予算化されておりますけども、これが引き続きされることによって、前年度の支援効果はどういった状況、これからまた改善点、多少、一段でも上げていって支援していくんだと、そういう面で、予算の面で大変厳しいと思いますけども、どういう効果が上がりましたか聞かせていただきたい。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 先般、実は経営体、今の御支援するような皆さん、お集まりいただいて、農林課のほうで関係各所出て説明会を実施しております。これは県の事業、国の事業の説明もあ

わけてですが、そういう中で農家の皆さんに聞きますと、金額の大小は別として、町が応援してくれてると、町が応援してくれてると意識というのは大変持っていて、どちらかといえば、喜んでいただける方向ではないかと思います。ただ、金額の面につきましては、10アール当たり4,000円ということでございます。県費を県のほうに無理を言いまして、何とかあと半分ぐらい見てもらえんかということをやっていますんで、そういうものが確定をいたしますと、多少、単町の負担も和らぎますので考えてみたいと思いますけども、私自身は担い手の皆さん、多少励みにはつながってるとはではないかという今のところ判断をいたしております。

○議長（川上 富夫君） これにつきまして質問がありますか、いいですか。

○議員（3番 三輪 英男君） いや、結構です。

○議長（川上 富夫君） では、次の質問を行ってください。

3番、三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） 最後の質問でございますが、ちょっと質問としては唐突かなという感じもいたしますけども、決算書上に記載されます不用額についてお尋ねいたします。

まず初めに、不用額とは何ぞやという問いに対しまして、私の不用額についての認識をお話しさせていただきます。このことは、私の認識が違ってありますと議論がかみ合わないおそれがありますので。そこで、不用額とは自治体の決算書における予算額と実際に支出した額の差額のことをいいます。不用という言葉からすると、要らなかったものとの印象が受けます。基本的には使い切って予算をゼロにするのではなく経費の削減などにより、いわゆる不用額を翌年度以降に使えるお金として積極的に残しているのが実態かと思えます。

そこで、平成23年度から26年度までの決算書から、各年度別にどれだけの不用額が発生しているのかを見てみました。平成23年度は、一般会計、特別会計合計で1億7,448万円、これは地方交付税の約11%、平成24年度は、同じく2億1,485万円、地方交付税の約14.5%、平成25年度は1億9,241万円、地方交付税の約14%、平成26年度は1億8,449万円、地方交付税の約13%となっております。参考まで、歳出決算の執行率は4期の平均値で96%であります。

そこで、不用額とは要らない金ではなく、翌年度の事業の予算額になっております。不用額の多寡を批判する意見もありますが、要は事業の費用対効果で判断することが大切であろうかと思えます。例えば、参考事例といたしまして、26年度の決算から見ますと、道路維持が当初約1億711万円、補正増額で7,036万、トータルしますと予算現額1億7,747万円から差し引きするところの支出済み額が1億6,177万円ということで、ここに不用額が1,571万円が発

生すると、そういうことは多々ございます。その中で、私は一つ気になった点がございまして、予算の一部未執行分の例として、地域少子化対策事業として実施期間、平成26年3月31日から平成27年3月31日とする所要見込み額115万8,000円が計上され、内訳として奥大山縁結び座談会事業費63万6,000円、愛されパパ、愛されママ育成講座事業費33万5,000円、子育て支援者研修会、育ジイをもっと活用しよう事業費18万5,000円は計画され予算化されました。しかしながら、実際に支出されたのは53万3,000円で、残り62万5,000円は不用額として処理されております。その取り扱いについては、それなりの事情があったと推察いたしますが、その事業費は人口減少対策としての事業予算である中、不用額としない対応が必要ではなかったかと考えられます。

以上、例題として挙げたものにつきましての扱いについて、町長の御所見を伺いたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 三輪議員さんのほうから、決算上の不用額の取り扱いと新公会計基準の対応についてということですが、先ほどもおっしゃったように、不用額、いわゆる使い切り予算を行わず経費の削減に進んでいこうと。どうしても、特に道路維持の話が出ましたけど、道路維持はいつ修繕が出てくるかわからないということで、きちきちの予算を組むわけにいきません。このたびの今議会でもちょっとお叱りを受けるとは思いますけども、最終日にちょっとお願いをしようということで計画していますが、除雪なんかでも一緒です。補正を組ませていただきました。しかしながら、思わぬ降雪があれば、当然住民の皆さんの通学、通園、また勤務に、通勤等に確保しなければいけない、そういう部分がございますので、本来的にはプラスアルファの予算をお願いをせざるを得ない。一方では、発注をしたら思わぬ軽減が出たと、いけば契約額が下がってきたとか、いろんな状況がございますので、3月補正で最終的には決算見込みを立ててやりますけども、最後に締め切ったときに不用額という表示が出てまいります。これは結果として、経費削減を行って次年度の財源に、繰越金に持っていこうという意思でございますので、決して要らなかったものを組ませていただいているということではございません。言葉の表示がそのようになってるということでございます。

それから、一つの例でおっしゃっていただきました子育ての部分で、国の事業等でいただいて対応しておりましたが、残念ながら福祉保健課の業務体系の中身とか職員の業務量のことがございまして、完全に100%実施ができなかったということは事実でございます。これは深く反省をしなければいけない部分だと思います。こういうことがないように、精いっぱい、1年間ある

わけですから、単町費なんかは特に4月からでも住民の皆さんの利便に供すれば、より一層効果が出るわけですから、補助事業とかその他は交付決定がなければいけませんけど。そういうことは常々職員にはお願いをしておりますけども、今後も気をつけていく必要があろうと思います。事例で申された点については、深く反省をしなければいけないというふうに考えております。

なお、29年度からは新会計に移らなくてはなりません。28年度の決算を使っての新公会計、つまり複式的な部分ですね、民間企業さんは当然やっておられるように。そういう部分がございますので、現在、予算でも出てきておるとも思いますけども、固定資産台帳の整備を行っているところでございます。つまり、町は道路、水路、そういうものも財産でございますので、これを価値をどう見るかということがなかなか素人はできませんので、今、予算を使わせていただいて委託をしながら資産を明解にしていこうと。そして、28年度の決算をもって、29年度に新会計、公会計に移行しなければいけないという準備を進めてるところでございます。どうかよろしくお願いたします。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） ありがとうございます。まさしく私の質問に対して、前向きに御答弁いただきましてありがとうございます。

今の公会計につきましては、これは29年度からということございまして、本当にいろんな面ががらりと、がらりというのは変ですが、財務諸表等が出てきますので、大変、逆の見方するとわかりやすい、財務管理等も含めて、一般の方にもわかりやすい、単式簿記から複式簿記、現金主義から発生主義という形で変わってきますので、ぜひともまた、そういう我々もその見方について検討しながら対応できたらなというふうに考えております。大変前向きな答弁、ありがとうございます。以上です。

○議長（川上 富夫君） これで三輪英男議員の一般質問を終了します。

○議長（川上 富夫君） ここで10分間休憩します。

開会は35分にします。待ってください、30分。済みません、30分に再開します。

午前10時21分休憩

午前10時30分再開

○議長（川上 富夫君） それでは再開します。

続いて、質問者、竹茂幹根議員の質問を許可します。

2番、竹茂幹根議員。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 竹内町長の進退についてという項目で通告をしたわけですが。先ほど、三好議員の質問の中で全てわかりました。改めて質問はいたしません。

1点だけ、ちょっと聞かせてほしいことがあります。一番、町長さんの12年間、非常に江府町の町政について、答弁でありましたように、されたということを私は耳にしました。そうして、その話を聞いて、私自身が何か後ろ髪を引かれるような気持ちで聞いたわけです。ですから、勇退されるのはされますけれども、しかし、町政を担われた人ですから、やはり今後について、そういう町政の方向やあり方について意見を出してもらって、よりよいまちづくりをしていく必要があるんじゃないかと思ってます。

一つ、一番心に残っておる、一番胸に残っておるということは何度も町長の口から聞いておりますし、そのことを忘れないことであろうというふうに思っておるものですが、いつかもちょっと言ったことがありますけれども、4人の被災の中で裁判を起こされた人、遺族の方が2人、そして、その遺族の家庭は妻子がある家庭でありました。それで、裁判が終わってから、私、ちょっと三重県の遺族の方に聞きました。裁判になるまで、非常に町との対応もいろいろと話をさせてもらったりしておったんですけれども、裁判になってからは、そういう話をする気もなくなって、町の、あるいはそういう管理者の人と会うことも嫌になってきた、こういうことをおっしゃってました。それで、慰霊祭とかそういうものにまだ行ってないと、こういうことでした。それから後、3年ですか、4年ですか、たったわけですが、実際に町でも町長さんがおっしゃったように、慰霊祭、そういうものもして、本当にやっておられるわけですが、遺族の方とのその後の交流はどうなっているんですか。

1点思うことは、それは関係しない、あるいはそういうことはできないということもあるかもしれませんが、私は、毎年、多額でなくて、線香代として遺族の方のところにするということは必要ではないだろうか。あるいはしておられるかもしれませんが、その辺は定かではありませんので……（「進退質問」と呼ぶ者あり）

○議長（川上 富夫君） 進退質問についてということでありました。それに附属する質問でございますけれども、竹内町長、答弁を求めます。

○町長（竹内 敏朗君） 進退質問の中で、特にスキー場事故の御遺族の対応です。これは、精いっぱいやらせていただきました。慰霊祭も3回忌まではやりました。今、お亡くなりになりましたけど、金屋谷の和尚さんに御無理を言って来ていただいてやりました。御遺族にもきちんと御

案内をしまいにしました。それから、それまでにつきましては、お盆にはお盆、また命日には命日の対応を江府町として精いっぱいやってまいりました。しかし、残念ながら和解ということにいかなくて、遺族から裁判という形で訴えられましたので、それに対応していったわけでございます。これもきちんと整理ができましたので、今後は毎年スキー場開きには、皆さんと一緒に、慰霊碑も建立させていただいておりますし、慰霊碑に献花をしながら、忘れずに安全対策に努めていくという誓いをしながら、今後もいきたいと思っております。私も個人となりましても、そのように努めていきたいというふうに考えてるところでございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

じゃ、次の質問を行ってください。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 影山教育長さん。教育長になられてそうして、本町の小・中学校、社会教育は別として、私が聞きたいのは小学校、中学校、義務教育、教育関係、それから、どういふふうな指針、いふぐあいに総括しながらどうなったか、抱負をちょっとお伺いしたい。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

影山教育長。

○教育長（影山 久志君） そういたしますと、竹茂議員さんから、新教育長としての小・中学校、教育行政に関する抱負ということで御質問いただきました。

私が教育長に就任させていただきまして2カ月ほどが経過いたしました。私も行政出身でございますので教職の経験はございません。そういった中で、小・中学校を何度か訪問させていただきまして、校長先生方とお話しする機会、そしてまた、学校の様子をお伺いする機会がございました。それぞれの学校がきちんとした目標を掲げて、学校教育に取り組まれております。そうしたしっかりとした学校運営を現在もされているというふうに思っております。これにつきましても、今まで江府町の教育振興に取り組んでこられました諸先輩、先輩諸氏の御尽力のたまものというふうに思っております。そういったことで、今まで培われてきましたこの江府町の教育、そして教育の理念というものを継承していくことが、私の仕事、務めだなというふうに感じておるところでございます。

と申しますのも、本町では昨年4月に国の教育制度改革によりまして、新たに江府町総合教育会議を設置いたしまして、江府町教育振興基本計画を江府町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱と定めております。その基本理念は、思いやりと心豊かな人づくりであります。そして、幼児教育、学校教育に関する基本的な方向と、それぞれの基本施策が定めてありますので、まずはそれらを一つずつしっかりとやっていきたいなというふうに思っております。

江府町の小・中学校の状況につきまして、月に1回、校長先生方とお話しできる機会もございます。子供の様子とか学校の様子もお伺いしてるところでございますので、また、新たな課題に対しましては、教育委員会という合議体の中で協議いたしまして方針を決定していただきたいというふうに思っているところでございます。

また、そういった中で、先ほどの御質問ではございませんでしたが、事前に、例えばこういったことということで質問通告書の中でいただいておりますので、その点についてお答えさせていただきたいと思っております。

まず、中学校の生徒数の減に伴う部活のあり方ということでございますが、今申し上げましたような観点から、必要に応じましては学校現場と相談、まず、これが一番と思っておりますので、今後の方向性等については検討してまいりたいと思っております。いろいろな考え方がございまして、子供が減ったら部活の数もだんだん少なくなっている現状でございますが、それは現場との話の中で対応していきたいというふうに思っております。部活動といいますのは、生徒たちが自分の関心ある分野で技術を高めるために日々努力することに加えまして、社会の構成員としての必要なルールや規範、こういったものを身につけることで習得する社会性、集団の中で磨く個性、自主性など、人間形成にとって重要なスキルを育成する場だと思っております。そうした部活動を通して生まれる生徒たちの夢や希望というものがございまして、こういったものを応援してまいりたいというふうに思っております。

それとあと、もう1点、小学校の放課後の児童と教師の交流についてということでございますが、これにつきましては、私はとても重要なことだと、必要なことだと思っております。授業とか行事だけでなく、放課後など、いろんな場面で子供にかかわることというのは、子供を多面的に見るということで、非常に重要なことだというふうに思っております。

現在、小学校では教育活動といたしまして、放課後の課外活動を実施されてます。全校体制による複数の教員での指導ということで、水泳大会でありますとか、陸上大会、音楽の発表会、あるいは学習発表会、そういったそれぞれの行事にあわせて、ほぼ一年を通して実施されています。これが今、いわゆる放課後における児童と教師の交流になっておるかと思っておりますけど、なかなかこれ以上のところは難しいというのが実態のようでございます、お話を聞いたところではですね。本来、課外活動のない放課後は、学校から離れて友達と遊んだり、家庭学習をする時間だと思っておりますが、バスの時間とか家庭の都合ですぐに下校できない子供は、校庭や体育館、図書館で過ごしているのが実態でございます。また、町では御存じのとおり、希望する児童を対象に放課後子ども教室を小学校で開設しております。これはコーディネーター1名と安全管理員4名の指導体

制のもとで、子供たちの見守りを行いながら、学習や体験、交流活動をしております。この教室は、学校とは切り離して運営を行っていますが、そういった場面でも学校のほうにも御協力いただきまして、少しでも児童と教師が交流できる、そういったことはできるだけ行っていただきたいというふうに思っているとでございます。以上、答弁にかえさせていただきます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

○議員（2番 竹茂 幹根君） ありません。

○議長（川上 富夫君） では、次の質問、お願いします。

2番、竹茂議員。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 新聞にも書いてありましたように、ほぼ財政の安定化は確立したというふうに町長がおっしゃいました。

○議長（川上 富夫君） ちょっと、竹茂議員。教育問題について、もう1件だけ質問入れておられましたが、それはよろしいですか。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 日野の3町の教育委員ですか。

○議長（川上 富夫君） はい。

○議員（2番 竹茂 幹根君） これは、一緒になってると思うから、いいです。

○議長（川上 富夫君） いいですか、はい、わかりました。（「進行」と呼ぶ者あり）

では、お願いします。財政確立、返済計画について。

○議員（2番 竹茂 幹根君） さっきもちょっと言われましたことですが、そういうふうに財政の安定化はほぼ確立したというふうにおっしゃられております。私、思うのに、やはり財政の安定化というものの条件、前と比べて、あるいはこうなった、あるいはこうであるから結果としてこの安定化の評価をしたという言葉が必要ではないかと、こういうふうに私、思うわけです。数字的に、あるいは違うかもしれませんが、私の記憶ですが違っておったら。やはり、町財政の安定化というのは不要不急の、不要不急はないといえそうだけれども、やはり、考えればこのことが不要不急じゃないかというような面もあるわけですが、そういうふうに財政を安定化させるための条件として、前と比べてこうなったから確立したんだという条件をもとにして、具体的にちょっと、いけば具体的っていったらおかしいですけども、安定化の条件は、どういうことが安定化の条件なんでしょうか。お伺いします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 失礼します。通告にもございましたので、それに沿った、今おっしゃり

ませんでしたけど。それと三好議員の答弁にも、数字は竹茂議員から御質問ございますのでということで、それまでは述べませんでした。竹茂議員から公債費、借金の残高のことが書いてございましたので、お間違いもされております。数字の間違いもございます。

そこで、具体的に申し上げますが、平成16年8月に任期をいただきました。その16年度末の残高は、特別会計と一般会計があるわけですね、普通。一般会計でいいますと70億でございます。それで、26年度末においては38億に減っております。つまり、31億減少ができたということでございます。じゃあ、特別会計はどうなんですかということと言いますと、国保から公共下水道まである。そして申し上げたとおり、下水道だけはやらせていただきたいということでやらせていただきまして、当然、借金もふえますけども、特別会計が平成16年度末、引き継ぎましたときに31億ございました。26年度末で34億になっております。つまり、2億ほどふえております。そして、合計でいきますと、一般会計、特別会計で102億、借金が16年度末にございましたが、現在は72億になると。つまり、約30億ですね、減っておるわけですね。じゃあ、特別会計ふえてるじゃないのということがございますけど、御承知いただきますように、これはあやめの建設でございます。26年度末に7億借金が残っておりますから、これが増加の要因でございます。そのほかは全部下がってきております、国庫では。それから、実質公債比率、公表されます公債比率が、実は19年から数字的に表に出ておりますけど、16年度でいいますと22から23%。公表になりました19年度が21.8%。じゃあ、26年度末は幾らになりましたかと言いますと12.7、つまり14を下回って、一応、安定的な状況は14%以下ということがございましたから、今は12.9ということで、大幅に改善できたということは数字的に事実でございます。

それから、基金でございますけども、いろんな基金、江府町はたくさん持っておりますけども、16年度末で8億5,000万ほど基金を持っております。その後、ふえたり減ったりしてきておりますが、27年度末見込みでいきますと約13億ほどございます。つまり4億7,000万ほど、ざっと基金は16年度末よりふえております。ですから、一つの根拠として、お預かりしてから12年間のうちに借金は半分程度に減ったと、結果として、皆さんと一緒に努力して減ったと。貯金は少しふえたということでございます。ですから、これからは当然、借金をしながら事業もしなければいけない。だけど、過疎債返済のように、交付税で見返りがあるものを選択しながら、そこは事業をやっていくということにつながっていくということで、おおよそ財政的には安定的な状況になったという裏づけでございます。

それから、ございましたけど、申告に、過疎債の利率が5%じゃないかということですが、こ

これは予算計上ルールとして何%以下ですよということは表示しております。今、16年度には1.2%で借り入れておりましたけど、現在は0.1%で借りておりますから、5%が余りにも高過ぎるところもございますから、新年度からはそれを3パーまではちょっと抑えて、そのかわり、それ以下じゃないと議会の議決をいただいた上で借りますから、それ以上は借りちゃいかんよということですけど、実態は0.1%で借りとりますので、本当に利率は下がってきて、利息負担分が少なくなってるのが現状でございます。数字的な根拠としては先ほど申し上げた状況でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

2番、竹茂議員。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 先ほど数字的に間違い。それは私も記憶にあったですから、そう言ったわけです。先ほどの5%以下についての比率、私は5%というふうに解釈しておって、利子を解釈すれば、1日に100万円ぐらいつくなというふうな実感を持っておったところ。だから、先ほどおっしゃったように、そういうふうに利子を掛けかえて、今はマイナス何とかになってますね。そういうものからすると、切りかえができるようなあれになってるんじゃないかと思うんですが、このことについては、副町長さんに、あるいは総務課の財政の方に1回来て話を聞いて、今、町長が説明されたようなことは大体わかったんです。その前の感覚でしたから、そういうふうに追加してもらいました。

○議長（川上 富夫君） そうでしたら、次の質問を行ってください。

竹茂議員。

○議員（2番 竹茂 幹根君） また同じような質問をするわけですがけれども、やはり大建工業の購入の一つの価格の決定の仕方は、固定資産税の評価額、これに2.4倍して12円90銭。それで、帳簿の面積にそれを記載して、約817万円。それから、さかやさんについては、公共価格を基準にして購入の交渉の多分、交渉の価格決定のもとにしたと、こういう、前に町長さんのほうから答弁をもらいました。そこで、やはり今、本当に町有林として、理由として、外資系の企業に資本が渡って乱開発になったらということで、外資系企業に資本の譲渡をしないように、それをして乱開発の抑制を図る。2番目に、水源涵養として町有林に入れると。3番目に、森林の保全として、そういう町有林に江府町は貢献するといっって、こういうふうな理由が上がっておったわけです。それで、先ほども財政確立のことでちょっと話そうと思っておったんですけど、私はこの購入の価格の決定が、一つは公共価格ですか、公共価格で売買をする、そういうふうな商取引をするということは、ちょっと私、おかしいじゃないかと。やはり公共価格を基準とすると

いうことは、土地収用法の、その土地がどうしても町として、町の住民の福祉の増進として必要だからこのものを借り入れるという場合には、公共価格をもって買収するというのは、公共価格の位置づけじゃないかと私は思っています。だから、一般に売買をするについては、取引について、やはり市場価格、そういうふうな双方での価格の交渉ということであるものであろうとするならば、本当に今、さかやさんの130円をもって購入する。そうして約7町歩817万、これはやはり、ちょっと市場価格や市場の流れとして、私は今、山林をそういうふうな意味で町が町有林として持つということ、ちょっと必要ない持ち方ではないかというふうに、私は思ってる。それで、大建工業の場合の固定資産の評価価格の2.3倍ということで、それについては、平米130円、これはいいと思うんです。ある程度容認できるとして、130円はちょっとやっぱり高いかなと、こういうふうに私は思う。もう一度その購入のあれについて、さかやさんの購入のいきさつについては、私はちょっと理解できないところがあるんですが。

○議長（川上 富夫君） これについては、2つとも同じ質問の中ですから、一括で答弁をお願いします。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 竹茂議員さんから、大河原の土地の、特にさかやさんについて、3度目の御質問いただきました。12月にもきちんと答弁をいたしておりますので、答弁内容は12月と変わりません。ただ、1点だけ、私どもが公共単価で買ってくださいと、買わせてくださいと言ったことは一度もございません。さかやさんのほうから国交省、三の沢堰堤で310円で買ってもらったと、これでどうなんだろうという話がありましたから、交渉の結果、最終的に130円、私どもは100円程度じゃないとということで交渉経過はございます。

それから、大建工業さんにしては財産処分をしたいと、大建さんから、評価額、税務署でいいます倍数がございます、宅地は何倍とか。そういうルールで結構ですよというお話が、町が環境保全、水源涵養、また外資系、そういうことを含めて買っていただければありがたいというのを大建工業さんからいただきました。さかやさんにしても、さかやさんからお話が出たことでございます。そして、一般の人工林のように営業林と違いまして、先ほど言いました、町がきちんとした財産として将来の世代にも安心していただくため、下流域には大河原水道もございます、いろんな生活の母体がございますから、そういうことを配慮したということでございます。

そのほかにつきましては、9月議会並びに12月議会でしっかりと御答弁をさせていただいておりますので、省略をさせていただきたいと思っておりますので、議事録等をごらんいただければと思います。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

2番、竹茂議員。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 先ほども言いましたように、今まで3回にわたって町長さんのほうから回答、答弁は得てるし、議会でもそれは議決されて、そういうふうになっているということは承知しております。しかしながら、やはり住民の意見としても、本当に平米130円、適正な価格、1町歩130万を出してまで、自分はよう買わないっていう、こういう声がたくさんあるわけです。それを、大河原の山林だけ、それだけ重要だという意味に私はとります。住民でも、そういうふうにとると思うんです。一度言ったこともありますけれど、じゃあ、130円で町が江府町の山林の保全のために、あるいは外資系の乱開発を抑制するというために、そこだけが町が買うべき、購入して、その保全を守るべき問題なのか。江府町の山林というのは全部、そういう非常に保全しなければいけないし、そういう状態であります。だから、そうすると、手放したいと、仮に町民の中において、そういうことがあった場合、1町歩130万、じゃあ町は買うのかと、こういうことなんです。私の言ってる意味は、そういう意味で高いということなんです。町有林として購入するについては、全部、保全のために山林について手放したいという山林所有者があれば、町は1町歩130万をもって購入するかと、こういうことなんです。

だから、そういう議論について、一般質問でこういうことをあれしても、これですから、やはりこういうようなことについて一問一答方式で、国会でいえば、例えば予算委員会のような形での議論ができるというふうにしていく必要もあるんじゃないかと。だから私は、きょうはあえて簡単な質問の仕方しかしておりません、そういう意味で。以上。

○議長（川上 富夫君） 答弁がございました。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 再質問いただきました。この件につきましては、議会の全員協議会、また議案提出、そういうことで町民の代表の皆さんの議会の最高議決権でございます議決をいただいた、御理解がいただいているということでございます。9月、12月にも答弁しておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

○議員（2番 竹茂 幹根君） ありません。

○議長（川上 富夫君） では、次の質問を行ってください。

竹茂議員。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 下安井から舟場間の町道のことについて、幾つか町長さんが言わ

れたことがありますんですが、日野町とその町道のあれについて話をしたら、日野町はそういうふうにしたいというような答弁であったというやに私は記憶しています。そうして、来年度の予算の中に調査費なのか、工事費がないですから、調査費だろうと思うんですけども、300何ぼだったっけ、記憶にありませんが、計上されていたように思います。私は、もうこれ以上、林道は必要だと思うんですけども、もう生活道路としてこれ以上、道をつけるということは、私は必要ないじゃないか。だから……（「防災」と呼ぶ者あり）

○議長（川上 富夫君） 続けてお願いします。

○議員（2番 竹茂 幹根君） だから、私は、そういう生活道路としての防災であるのも生活道路も、そういう生活道路として下安井から舟場まで、今、森田議員は防災道路だという形でおっしゃいましたんです。防災道路にしても、私はその新設は必要ないじゃないかというふうに思っているところですが、必要な意味合いがもしありましたら。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 竹茂議員から下安井－舟場間の町道の新設について意義はあるかということで、必要ないという竹茂議員の御判断のようでございます。予算は、当然、施工や何かの予算でございませぬ。調査の予算でございませぬ。過去、申し上げてきたとおり、江府町にも将来計画として舟場につながった町道、いけば行きどまりではなくて人々が通行できる。その根拠は、国道181号線、貝原－荒田間は大変、山、JR、国道、日野川と狭隘なところになっております。ここで災害が発生した場合、当然、JRも通れない、国道も通れないで。つまり、国道が通れない場合には対岸におおよそ、米子市に含めても対岸に迂回道路といえますか、そういうものは整備されてきてるわけでございませぬ。ですから、日野町と江府町でやるんじゃなくて、県も中心になって、三者でこの検討が議論をなされておったわけでございませぬ。江府町も従来、総合計画ございまして、ある事業の保全事業が入るときに実施をしたらということがございましたけど、当時、日野町さんがまだそこまで御決断ができなかったということですが、このたび、下安井に橋をかけさせていただきました。これの開通によりまして、日野町のほう、舟場さんのほうからも集落から日野町に対して、何とか下安井との道路をお願いしたいという要望も出てきたということの日野町からお聞きいたしました。そして、県に国道のバイパスということも、災害時の配慮も必要ではないかということをおし上げておりましたら、このたび県の一緒になって、調査研究をしてみたらどうかということで、お互いにお金を出し合って進めていこうというのが28年度の予算でございませぬ。ですから、まだまだ計画の前段みたいな格好ですけど、やっぱり意義は

そういうことで、県も一緒になってということで、国道181の状況の配慮が加わっているということでございます。下安井の橋は御承知のように、幅員もしっかりとった、大型車でも自由に通行できるような広さにしておりますから、今後、長い年月をかけての事業になるかもしれませんが、やっぱりどこかでスタートをしなければいけないということから、予算化を提案をしておるところでございますので、どうか御議論をいただきたいというふうに思います。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

○議員（2番 竹茂 幹根君） ありません。

○議長（川上 富夫君） これで、竹茂幹根議員の一般質問は終了します。

以上、一般質問を終了します。

○議長（川上 富夫君） 以上で本日の議事日程は全部終了しました。

これをもって散会とします。御苦労さまでした。

午後0時10分散会
